

五車輪書

お寺のエコ

東福寺では

水のまき

「水は、よく室です。このよく室は、今でいうところのサウナばるです。じょうぎを出して、じょうぎがそのままだにあれば、いやなので、ぬのをしいてでてくるじょうぎで、あかをいやくし、すりおとする。その時、きちようだ、た水をむだにしない方法です。そのとまは百人たんののそうりよかいたため水をたいりようにつか、こまうのでエコだ、という事です。」

心のまき

「ぜんはぜんどうでします。そこはエスコンもありません。そこで心をからいにして、あついている。思っているからあつくて、さむいと思ひうからさむいのです。じやうしよくさん、に、言われました。たのびエスコンな、びがなくて、もせんか、でえるのです。その心が、成るからエコか、でえるのです。」

生活のまき

「このほかにも、東福寺では、さまざまなか、が、あります。東福寺では、はいせう物を、お百しようさんに、わたし、たり寺の、茶、畑に、まいて、ひりようにして、古、目、たりして、いました、つれもエコです。今、しようかいしたの、は、昨日の、東福寺のエコです。」

物のまき

「このお寺には、古くから、いいつたえ、が、あります。そのお、は、な、い、は、も、たい、ない、お、ば、け、です。平安時代、ス、そ、う、じ、の、と、キ、も、の、を、い、う、ば、い、す、て、いた、人、か、い、う、ば、い、て、古、か、た、も、の、を、直、せる、もの、な、ど、を、き、す、て、その、物、は、い、かり、かな、し、ん、で、も、の、か、よ、う、か、い、い、な、て、人、を、お、び、か、す、み、ん、な、も、その、を、大、切、に。」

かんそうのまき

「ぼくは、お寺のエコについて、調べて、エコといふのは、人、物、の、時間、を、大、切、に、し、て、い、く、う、と、だ、い、し、て、い、ま、した、それ、を、み、ん、な、か、す、れ、ば、い、い、こ、と、か、な、る、と、思、い、ま、した。家の、内、で、も、外、で、も、エコ、を、し、て、い、き、たい、です。す、う、と、な、い、も、か、も、か、よ、く、な、る、と、思、い、ま、した。」

まとめ

て、か、小、学、校、い、ま、ま、き、ま、さ、元

